

住民提案と 市民主権システム

1%システム事業を対象に

檜楨貢

(弘前大学大学院地域社会研究科)

住民税の1%を市民が使う

- × 納税者意識を掘り起こす
市民が自由に使い方を決める財源6000万円を提示することの意義。
- × 自治体の自主財源感覚を形成する
住民税は60億円。
貴重な住民の税を大事に使う意識。
弘前市の財政への関心が高まる。
- × 行動する住民が育つ

住民提案型事業のキーワード

- × 地方自治は民主主義の学校
- × 直接民主主義
- × 住民自治
- × 市民主権システム
- × 市民参加システム
- × 市民と行政の関係
- × 住民主体の事業公募

住民提案の市政における系譜 1

(住民サイド)

- × 陳情請願の時代（有力者、議員等を媒介）
- × 行政ニーズ（もの言わぬ住民が前提）
- × 広聴の時代（市長への手紙、相談窓口）
- × 参加のシステムの確立（市民参加、住民参加、コミュニティ参加の重層的実施）
- × 地域社会における組織の弱さが認識
- × 行動する市民活動集団の登場（〇〇を実現する会、NPO等を結成して活動）
- × 住民・市民主体による事業デザインを求める

住民提案の市政における系譜 2

（行政サイド）

- × 市町村経営の合理化
- × 行財政改革（減量経営、補助金カット）
- × 事業成果の判定（評価重視）
- × ソフト重視の政策志向
- × 住民協働の必要性（行動する住民との連携）
- × 行政広報の限界打破（住民とともに、行政が動く）
- × マニフェスト行政の展開

1%事業のねらい

- × 住民自らが足元（居住の場とネットワーク）の問題を解決する
- × 未来に向かっての「組織化」を促す（申請書を作成する段階から提案事業を実施し評価する段階まで）
- × 審査（市民が審査することに注目）と支援（サポート事業が申請されたが、不採択という事例があった）のしくみが成長する
- × 地域（まち）づくりを主体的なものにする

住民提案型補助金行政

- × 「公益上必要がある場合には、寄付または補助をすることができる」（自治法232条の2）＝団体補助金
- × 1％はマニフェストで予算総額と住民提案を求めている＝事業を事前に指定していない
- × 公開の事業審査
- × 市民審査会（申請者のプレゼンテーションとそれを判断する市民の審査会）

新しい公共

- × 審査会の審議での判断基準として、「新しい公共」という表現がよく使われた。
- × 政府や市場が対象としないもう1つの課題を「新しい公共」とよんで、市民活動実施の必要性を認識。
- × 住民主体によるまちづくりの実践的活動。

パーセント条例との違い

- × ハンガリー法の応用の「パーセント条例」
- × 指定寄付を要素とする納税制度。NPO、教会、政府の事業等を指定して納税。背景には納税者重視。とりわけ高額納税者の意向。
- × 市川市の1%条例（「市川市の納税者が選択する市民活動団体への支援に関する条例」）。
- × 弘前市の1%は、弘前市の個人住民税の1%相当分を財源とした住民提案による住民の事業。

どんな申請があったのか (平成23年度)

| 分野 | 活動特性 | 件数と金額 |
|------------|-------------------------------------|------------|
| 農業土木 | U字溝等の資材を購入し、住民自らで農業土木を実施。 | 3件・1,441千円 |
| コミュニティの活性化 | 町会やその広域組織が申請。地縁の祭が中心。1件当たりの申請額は小さい。 | 4件・390千円 |
| 地域福祉 | 市民後見人の養成、住民の権利擁護のしくみづくり。 | 3件・1,082千円 |
| 防犯・青少年育成 | 主に小学校区の広がりでの防犯等の活動。 | 3件・525千円 |
| 文化・伝統芸能 | ダンス・パフォーマンス、伝統芸能活動の場や機会をつくる。 | 6件・2,302千円 |
| その他 | 上記の5つのジャンルにおさまりに切れない活動 | 4件・1,367千円 |

審査のこと

- × ①申請書作成
事業計画の作成（役所の文化？）
- × ②審査員からの事前質問
④で活用されることもある
- × ③プレゼン
申請代表者による7～8分のプレゼン。パフォーマンスも可能。
- × ④審査員との意見交換
審査基準（応募時に提示されている基準）等の確認を基礎に、意見交換が進む。
- × ⑤審議傍聴
④の後に、審査委員による提案事業の主題や手段等の確認審議を申請者は傍聴する。
- × ⑥審査結果の公開
審査結果は速やかに、会場後部のボードに張り出される。
- × ⑦予算等の調整（事務局）
採択された案件から補助事業にまとめるための予算単価等の調整。
- × ⑧市長決定

不採択団体の意見（平成23年10月）

| 補助対象 | 団体からの意見 | 団体 |
|-------------------|---|------|
| 納涼会でのゲーム費用 | 有料ゲームでは盛り上がらないので、その分を申請。市議員に相談した方が早い。 | 町会 |
| ゴミ置場の整備と側溝清掃器具の購入 | 地域環境と除雪の基盤ができていないので申請。市役所の担当部署に断られた。 | 町会 |
| リサイクル展示費 | 百貨店やスーパーでの展示は生活者参加につながるので申請。店舗のPRと見られた。 | 市民活動 |
| 景観啓発の講師費 | 世話になっている講師への旅費と思って、申請。その分が削られたので取り下げた。 | 市民活動 |
| 記念誌の作成費 | 10年の活動を残すことで申請。審査の物差しがわからない。 | 市民活動 |
| 会場への送迎用のバス代 | ボランティアによる送迎を提案されたが、できない。現場を見て審査してほしい。 | 市民活動 |
| 研修講師費 | 既成の研修キットばかり議論され、研修を介したネットワークに目がいていない。 | 市民活動 |
| 文学賞の賞金 | 選者に謝礼を払うのは当然。審査会でもこんな話合いをして欲しい。 | 市民活動 |
| 街なかでの情報環境整備費 | 提案はすべて認めて清算段階でチェックするというのがいい。審査委員がマイナス思考で審査しているように思える。 | 市民活動 |
| 震災風刺漫画の展示費 | これほどの風刺画は今しか集まらない。この機会を失うのは惜しい。 | 市民活動 |

問題点・反省点

- × 住民提案にふさわしい申請・審査・結果報告のスタイルができているのか。
- × 「新しい公共」の試みとして、弘前市民と行政がこの事業を認識しているのか。
- × 住民提案が住民主体のまちづくりに結集しているのか。
- × 住民提案を行政サイドが活かす対応をしているのか。
- × 住民提案のサポーターが現れていない。

1%事業の4つの実験

トップリーダー
による政策主導

生活世界におけ
る自治の展開

政策参画

市民が税の使
途決定

トップリーダーによる政策主導

トップリーダーによる政策主導

市民主権構築の
マニフェスト

住民自治の挑戦

問題解決能力を
もつ社会づくり

生活世界における自治の展開

生活世界における
自治の展開

住民の足元から
の発想

予め領域を決め
ないジャンル

政策参画

政策参画

```
graph LR; A[政策参画] --- B[提案に税を投入していいのか判断する審査会]; A --- C[住民提案事業のサポート探し];
```

提案に税を投入していいのか判断する審査会

住民提案事業のサポート探し

市民が税の使途を決める

市民が税の使途
を決める

市民の審査会が
税の使途案を決
める

税へ市民の関心
向上

今後の可能性

- × 継続することが前提。
- × 住民提案の価値を重視する。
- × 現在の提案活動と審査の「難しさ」を乗り越えて、住民のスタイルに辿りつくこと。
- × 行政のスタイルが変わる。

× ご清聴ありがとうございました。